

# CALE NEWS

Center for Asian Legal Exchange

名古屋大学法政国際教育協力研究センターニュースレター

アジア法交流館  
Asian Legal Exchange Plaza



■ 特集 CALE20周年記念式典・国際シンポジウム	
20年の歴史を踏まえ、新たな一歩へ .....	2頁
名古屋大学法政国際教育協力研究センター長 村上正子	
名古屋大学の国際交流の原動力CALE .....	3頁
名古屋大学総長 杉山直	
「グローバル社会におけるCALEへの期待」 .....	4頁
文部科学省大臣官房審議官（高等教育局及び科学技術政策連携担当）西條正明	
CALE設立20周年に寄せて .....	5頁
法務省法務総合研究所長 上富敏伸	
CALEのこれまでとこれから—当日を振り返って .....	6頁
名古屋大学法政国際教育協力研究センター副センター長 松田貴文	
報告 “An Empirical Research of Law Governing Cartels and	
Leniency Program to Combat Hardcore Cartels in Thailand” .....	7頁
タイ・控訴裁判所裁判官 Benjawan Tangsatsapornpan	
報告「中国における行政法法典化の方向：	
日韓における行政法法典化との比較」 .....	7頁
中国西北政法大学行政法学院 専任講師 李竜賢	
■ Congratulatory Message for CALE 20th-Anniversary	
from former Nagoya University leadership .....	8頁
■ Congratulatory Message for CALE 20th-Anniversary	
from domestic partners .....	10頁
■ Congratulatory Message for CALE 20th-Anniversary	
from foreign partners .....	13頁

号外

## 20年の歴史を踏まえ、新たな一歩へ



名古屋大学  
法政国際教育協力  
研究センター長

村上 正子

名古屋大学法政国際教育協力研究センター（以下、「CALE」という。）は、2002年に設立され、今年20周年を迎えることが出来ました。これを記念して、2022年9月20日（火）、21日（水）の両日に、式典とシンポジウムを開催いたしました。

今回の記念シンポジウムのタイトルは、「アジアにおける法研究、法教育及び法協力の促進～過去から学び、未来を見据える（Promoting Legal Research, Education, and Cooperation in Asia: Learning from the Past, Looking to the Future）」というものです。これまでCALEの活動を支えてくださった方々への感謝を示すとともに、先人たちが培ってきた実績を踏まえて、これからCALEがどのように発展していくのかという、新たな方向性を示す意味が込められています。

CALEの前身は、2000年に法学研究科内の一組織として設立された「アジア法政情報交流センター」であり、Center for Asian Legal Exchangeという英語名はここからきています。20周年を迎え、社会情勢やCALEの運営体制にも変化がみられるなか、今一度原点に立ち返って、このlegal exchangeという言葉の意味を、改めて考えてみました。

90年代から、多くのアジア諸国は、体制移行の過程で、法整備支援を受けつつ、様々な分野の法制度を形成し、それを支える専門家も育成してきました。それから30年余り、これからは、CALEの主力事業である日本法教育研究センター（以下、「CJL」という。）の、今年度で400名を超える修了生や、法学研究科の修了生たちとの双方向的な研究交流を通して、日本とアジア諸国双方の法学研究のさらなる発展につなげていこうと考えています。

また、現在CALEの運営は、体制移行国の研究者や日本語教育の専門家と、欧米の法理論を研究対象とする基礎法や実定法の研究者が一体となって行っています。これにより、CALEをハブにして、欧米系の法学研究とアジア系の法学研究という、新たな法の交流が可能となります。CALEの国際的なネットワークを活用し、パートナー機関の研究者とともに、多様な法整備支援プロジェクトを相互に比較することも、legal exchangeの発展につながるでしょう。

今回の記念シンポジウムは、企画から運営の細部に至るまで、CALEのスタッフ一人一人が、それぞれの特技を活かし、協力して創り上げたものでもあります。現役の大学院生だけでなく、スタッフのOB・OGの協力も得られました。このチームワークこそが、CALEの自慢でもあり、これまでのCALEの活動を見えないところで支えてくれたものと、改めて実感しました。

このシンポジウムを契機として、今年4月から独立の組織となったCJLの松尾陽センター長とともに、教育と研究の融合をさらに強化させ、次のステージへと新たな一歩を踏み出していくきたいと思っています。

今後とも引き続きご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。



CALE20周年記念シンポジウムでの集合写真

# 名古屋大学の国際交流の原動力CALE



名古屋大学  
総長  
杉山 直

名古屋大学は、第二次世界大戦前から続く日本を代表する総合研究大学です。2000年に定められた名古屋大学学術憲章では、「自由闊達」な学風の下、真理を探求し世界屈指の研究成果を生み出すこと、そして、論理的思考と想像力に富んだ「勇気ある知識人」を育成することを、研究・教育活動の基本目標としています。その歴史の中では、本学に所属した6名の研究者によるノーベル賞の受賞をはじめ、国際的に高い評価を受ける独創的な研究成果を多々創出しています。また、日本のもの

づくりの中心地にある大学として、産業界に数多の人材を輩出してきました。

これに加えて、本学学術憲章では目標のひとつに「国際的な学術連携および留学生教育を進め、世界とりわけアジア諸国との交流に貢献する。」を掲げています。このアジア諸国を中心とした国際連携の取り組みが高く評価され、2014年には、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択されました。以来「英語のみで卒業できるグローバル30プログラム」、「海外主要大学と共同で学位を授与するジョイントディグリープログラム」、「アジア諸国の政府幹部等に対して、在職しながら博士学位の取得を目指すアジアサテライトキャンパス学院」等を展開して、いずれも国際的な教育の進展に成果を上げ、スーパーグローバル事業として群を抜く評価を得て参りました。

これら名古屋大学の国際連携・交流の草分けとも言えるのが、法学研究科の取り組みです。学術憲章制定から遡ることおよそ10年、1990年代からアジア諸国に対する法整備支援事業を展開しており、30年の長きにわたって活動を継続しています。その内容と成果が、各界からも高く評価され、2002年に法学分野の国際協力を推進する拠点として、法政国際教育協力研究センター（CALE）が設置され、このたび設立20周年を迎えることとなりました。

その間、CALEは、アジア市場経済移行国に対する法整備支援事業を実施するとともに、アジア諸国に対する法整備支援研究において、国内屈指の研究拠点として活動して参りました。また、法学研究科・CALEの活動として、特筆すべきは、2005年以降、ウズベキスタン、モンゴル、ベトナム、カンボジアといったアジア諸国に、日本語で日本法教育を行う「日本法教育研究センター」を設置したことです。日本語が堪能で、かつ日本法に精通した人材を系統的に育成するこの事業は、法整備支援の分野で新たな地平を開拓する画期的な取り組みです。私自身、モンゴルでの授業を参観させていただいたことがあるのですが、聞いたこともない法律の専門用語が飛び交う壯観な授業風景であったことが極めて印象に残っています。

この取り組みは、日本の国際交流の先進的な事例の一つとなっていて、事業の成功は、名古屋大学がアジアを中心とした国際交流の展開を推進する原動力となっています。アジアの時代である21世紀において、アジア諸国から多くの留学生を受け入れ、各国の中枢で活躍する優秀な人材を輩出し、アジア諸国の法の発展に寄与してきた法整備支援事業は、今後ますます、アジア地域の発展に不可欠な取り組みとなります。

これら先進的な取り組みは、森嶌昭夫名誉教授や初代CALEセンター長であった佐々木雄太名誉教授、さらにはその後の歴代センター長、またCALE設立に当たってご寄付をいただいた中部財界や法学部同窓会なくしてはなし得ませんでした。感謝申し上げます。

さて、名古屋大学では、本学がこれまで蓄積してきた海外大学等とのネットワークおよび海外拠点の展開を結集する「グローバル・マルチキャンパス推進機構」を今年度から設置しています。これは、これまで各部局ごとに行われてきた国際的活動を名古屋大学の財産として持続的に担保し、最大限に活用することを目的として設置された組織であり、構成員として、CALEと日本法教育研究センターも加わっています。これを機に、今までの卓越した実績・成果と培ったノウハウを今後は名古屋大学全体にも生かしていただき、国際交流の進展に一層寄与していただきたいと考えています。そのため、大学としても、CALEや日本法教育研究センターに対して、今後もできる限りのバックアップをしていく所存です。

# 「グローバル社会におけるCALEへの期待」



文部科学省大臣官房  
審議官(高等教育局及び  
科学技術政策連携担当)

西條 正明

知しております。

また、法学部・法学研究科では、法律家人材の育成において、これまでアジア諸国より多くの法律を学ぶ留学生を受け入れ、卒業・修了した留学生は、母国の国家機関・大学などで、中枢的人材として活躍されていると伺っております。さらに、名古屋大学においては、平成17年からアジア各国に「日本法教育研究センター」を設立し、日本語による日本法教育を進めてこられました。これらの事業は、教育・研究・社会貢献をミッションとする大学の特色を生かした優れた人材育成の取り組みであり、アジア各国の安定的な発展に不可欠な法整備を担う人材育成において、着実な成果を上げられております。

文部科学省では、コロナ禍で大きく停滞した国際的な学生交流を立て直すために、「高等教育を軸としたグローバル政策の方向性」を取りまとめました。5年後の2027年を目処に、激減した外国人留学生の受け入れ、日本人留学生の海外留学を、少なくともコロナ禍前の水準に回復させることを目指し、「戦略的な外国人留学生の確保」、「産学官を挙げてのグローバル人材の育成」、「大学等の真のグローバル化を進める基盤のルールの整備」の3つの柱を中心として取組を進めていきたいと考えております。

CALEおよび日本法教育研究センターの取り組みは、国際的な学生交流の推進とグローバル人材育成に資するとともに、昨今の複雑で厳しい国際情勢の中で、自由・民主主義・基本的人権・市場経済そして法の支配といった価値観を国際社会に浸透・共有する重要なものと理解しております。国際社会とりわけアジアの平和と安定のために、名古屋大学の取り組みを、今後もぜひ維持・発展させていただきたいと思います。



当日式典での祝辞



2019年度のCJL夏季セミナー

# CALE設立20周年に寄せて



法務省  
法務総合研究所長

上富 敏伸

法政国際教育協力研究センター（CALE）は、法整備支援という言葉が現在ほどは一般には知られていなかった平成14年（2002年）に、法学分野の国際協力を推進する教育研究機関として設立され、それから現在に至るまでの間、法務省を始めとする政府機関、JICA、他の大学及び企業等と協力しながら、我が国の法整備支援を牽引してこられました。そして、今では、日本を代表する法整備支援の拠

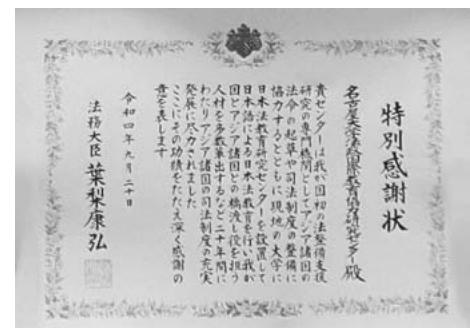
点として内外に確固たる地位を築かれ、教育、研究の両面において、輝かしい実績を挙げておられます。

これまでCALEの発展に御尽力されてこられた教職員の方々を始めとする関係者の皆様に対し、CALEが設立20周年を迎えたことに心からの御祝いを申し上げるとともに、深い敬意を表したいと思います。また、アジア諸国との司法制度の充実発展に対するCALEの顕著な功績に鑑み、このたび、法務大臣の特別感謝状を贈呈させていただきました。法務省を代表して改めて感謝申し上げます。

ところで、私ども、法務総合研究所の国際協力部は政府内では唯一の法整備支援の専門部署ですが、CALEとは、その設立以来、密接な協力関係を築かせていただいています。例えば、法務総合研究所とJICAが主催している法整備支援連絡会には、CALEセンター長を始めとする関係者の皆様に毎年出席していただいており、また、法務総合研究所が法整備支援に関心がある大学生、司法修習生等を対象として毎年主催している「法整備支援へのいざない」というイベントについても、CALEとは連携をさせていただいています。そのほか、CALE主催のイベント等には、国際協力部の教官が参加させていただくことが多く、法務総合研究所は、CALEから、これらの意見交換、情報交換を通じて、法整備支援についての有益な知見を提供していただいている。

さらに、特筆すべきは、CALEが、アジア諸国における法学教育支援に力を入れてこられ、平成17年（2005年）以降、ベトナム社会主義共和国、カンボジア王国、ウズベキスタン共和国など計7か国の現地の大学と連携し、それぞれの大学に「日本法教育研究センター」を設置され、現地の学生に対して日本語による日本法の教育を行ってこられてきたという点であります。そして、これらの「日本法教育研究センター」からは、自国の法制度・法学の向上に活躍し、日本との架け橋となる有為な人材が多数輩出されていますが、これらの人材は法整備支援活動でも大きな助けとなっており、相手国のみならず我が国にとっても大きな財産となっています。

法務総合研究所といたしましては、アジア諸国において、法整備支援を通して法の支配がより深く浸透し、また、法曹養成や法学教育がより一層充実したものとなるよう、引き続きCALEとの連携・協力を進めて参りたいと考えております。



法務大臣の特別感謝状



特別感謝状贈呈

# CALEのこれまでとこれから 一当日を振り返って

名古屋大学  
法政国際教育協力研究センター  
副センター長

松田 貴文

9月20日・21日の2日間にわたって、CALE設立20周年記念式典・シンポジウムが開催されました。まれに見る大きな台風が接近していたため、当日は予定通りの形での開催が危ぶまれましたが、幸い無事に開催することができました。そうした中、各国から多くの方々にご参加いただき、また多数のお祝いの言葉をいただいたことを、この場を借りて改めてお礼申し上げます。当日は複数のイベントが開催されましたが、本稿では、そのようすを簡単にふりかえりたいと思います。

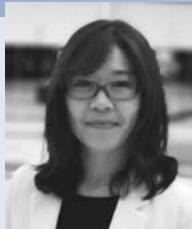
1日目は、第1セッションとして記念式典、第2セッションとして法学研究科修了生による研究報告が行われました。記念式典では、村上CALEセンター長、杉山総長からのご挨拶の後、文部科学省から、西條正明文部科学省大臣官房審議官よりご祝辞をいただき、法務省からは、葉梨康弘法務大臣からの特別感謝状授与とともに、上富敏伸法務省法務総合研究所長よりご祝辞を頂戴しました。そして、法学研究科同窓生代表としてベトナムから、ダン・ホアン・オアイン司法副大臣よりビデオメッセージをいただきました。最後に、牧野絵美CALE副センター長より20年間の活動報告が行われました。

第2セッションでは、かつて名古屋大学大学院法学研究科にて留学生として研究をし、現在各国で活躍している修了生たちが、3つのサブセッションに分かれて合計9つの報告を行いました。私が参加したサブセッション2では、カンボジアにおける有期雇用契約を無期転換する法制度、IT化に伴う労働契約の変化と労働者概念の問題、ベトナムにおける国際的な子の連れ去りに対する実効的法制度の問題、外国人研究者としての視点から見た日本における法観念の問題について報告が行われました。このサブセッションに限らず、いくつかの報告ではかつての指導教員にコメントーターをお願いしたものもあったため、ある種の同窓会的な雰囲気もあり、また、一つのセッションの中で色々な国のさまざまな問題を多様なバックボーンを持つ参加者たちが「こちらの国ではこうなっているが、そちらはどうなっているか」などと一緒に議論する様子は、まさに比較法研究の現場としての熱気を帯びていたように感じられました。さらに1日目の最後には、オンラインと対面のハイブリッドによる同窓会／交流会が行われ、懐かしい顔に久し振りに会って懇談する時間も過ごすことができました。

2日目は、研究による交流セッションとして、‘The Transformation of Legal Cooperation Philosophy- New Actors and Challenges in Asia’と題する第3セッションのシンポジウムと、‘Comparative Law in Asia: Foreign law and the Virtue of Legal Transformations in Asia’と題する第4セッションのシンポジウムが行われました。冷戦時代には主に欧米諸国によって国際的な法支援が行われてきましたが、権威主義的国家において法が政府の行為を正当化する道具として用いられるという事態もあって法支援のあり方が転換を迫られる中、90年代以降、新たなコンセプトに基づく法支援への以降の動きが生じました。第3セッションでは、その担い手としての日本、韓国、中国の法支援について、それぞれ法務省法務総合研究所国際協力部の茅根航一教官、韓国法制研究院の崔桓容上級研究員、オックスフォード大学東洋学部のMatthew Erie准教授による報告が行われました。また、法的な支援は、単に先進国で構築された法的制度をそのまま受入国に移植したのでは、却って歪みを生じることがあります。第4セッションでは、メルボルン大学ロースクールのSusan Kneebone教授、CALEのAziz Ismatov特任講師、シンガポール国立大学のBurton Ong准教授、モンゴル国立大学法学部教授のGangabaatar Dashbalbar教授・憲法裁判所判事より、それぞれの専門領域から具体的な素材を取り上げて、そうした法的支援が起こしうる歪みを明らかにする研究報告が行われました。

以上のように、20周年記念式典・シンポジウムの1日目はCALEがこれまで積み重ねてきたものを改めて総括する機会となり、2日目はこれからの新たな方向性を示唆してくれるものとなりました。それを具体化し、前に進めていくことがCALEに課されたこれからの課題です。

# 報告“An Empirical Research of Law Governing Cartels and Leniency Program to Combat Hardcore Cartels in Thailand”



タイ・控訴裁判所  
裁判官

Benjawan  
Tangsatapornpan

First of all, I wish to express my deep gratitude toward the Center for Asian Legal Exchange (CALE) and the Graduate School of Law, Nagoya University for providing me this value opportunity to be a part of this meaningful event. It was a very wonderful moment to celebrate this big occasion with alumni and professors at my beloved school and broaden intellectual horizon with other academic scholars and researchers globally. At the CALE's 20th Anniversary – Promoting Legal Research, Education

and Cooperation in Asia: Learning from the Past, Looking to the Future Symposium and Conference, I had a value opportunity to present my research result title “An Empirical Research of Law Governing Cartels and Leniency Program to Combat Hardcore Cartels in Thailand”. The research employed the combination of comparative and empirical study. The empirical study includes quantitative survey of target sample population of 936 people (confidence interval level of 99 percent with the margin of error about 4 percent) and qualitative interview of 32 interviewees to cross check the quantitative analysis test and get through perception in more details. The research also employed theoretical and comparative legal studies to analyze world-leading leniency models together with the analysis of Thailand's socio-economic factors to examine and design proper leniency policy for Thailand. After all, the CALE's 20th Anniversary Symposium and Conference is very impressive. I believe that CALE would be the fantastic platform for legal scholars and researchers globally to develop their researches and will benefit to the development of legal research and innovation in the long run. Finally, congratulation on the 20th CALE Anniversary! Wishing more success in the upcoming future.

## 報告「中国における行政法法典化の方向：日韓における行政法法典化との比較」



中国西北政法大学  
行政法学院  
専任講師

李 竜賢

2022年9月20日、私は名古屋大学法政国際教育協力研究センター（CALE）創立20周年シンポジウムにオンラインで参加し、「中国における行政法法典化の方向：日韓における行政法法典化との比較」というテーマで報告を致しました。

行政法の法典化は行政法の発展において肝心なものであります。特に、東アジア地域の中国、日本、韓国における行政法法典化の方向の研究は、社会体制や法典化の整備段階の違いに関係なく、ますますその重要性を示しています。中国における行政法法典化の方向を探求する場合には、行政通則法と行政手続法の制定が肝心な問題となっています。

最近、韓国でも、通則法理論体系の構築が行政法の問題となり、また行政法各論や行政領域論といった行政法一般だけでは十分ではないと考えられてきた日本の行政法の展開も、研究の参考に値します。今回は、行政法法典化の方向を探求する場合に、実体法および手続法を如何にして法典において融合させるのかという問題に絞って、報告致しました。

今年は名古屋大学法政国際教育協力研究センター（CALE）創立20周年、なお、行政法の分野では、東アジア行政法学会創立27周年（1995年、名古屋大学において第1回学術総会が開催）というめでたい年でございます。中国、日本、韓国における行政法法典化の方向の研究は、アジア特に東アジア地域の行政法の研究と交流においては有意義なものであり、それは各国における「包摂」と協力の理念に基づくのが大事だと考えます。今後アジアにおける学問的交流と発展という共通課題を意識しながら、研究を一層深めたいと考えています。

# Congratulatory Message for CALE 20th-Anniversary

## from former Nagoya University leadership

濱口 道成  
第13代総長（日本）



CALE20周年おめでとうございます。皆様にお目にかかる事は残念ですが、振り返れば走馬灯のように、皆様とアジアの拠点を築き、人材育成の壮大な作業を進めた頃が懐かしく思われます。

'19年末より始まったコロナ禍は、多大な犠牲を生み、世界を大きく変えています。'20年春、ハラリ博士は、コロナ禍により世界が2つの選択を求められていると述べています。即ち①「全体主義的監視」か「市民のエンパワーメント」か、②「国家主義的な孤立」か「グローバルな結束」か、です。残念ながらこの2年間、世界の民主主義スコア（V-Dem2022）は、大きく減退しています。今、民主主義、人権、法の支配を伝えるCALEの活動は、大転換する歴史の最前線に有ります。ご活躍を切に祈念します。

森嶌 昭夫  
名古屋大学名誉教授、弁護士（日本）



CALE20周年記念心からお祝いいたします。アジア太平洋諸国の現代法政治制度について調査研究して情報を集積するとともに、アジア各国の研究機関・研究者と交流する、というCALEのアイデア（運営方針）は、実は、私が法学部長であった1990年初めに在職の皆さんと議論しながら創り上げたもので、法学部卒業生や名古屋経済界の1億円拠金等の支援によって事業が可能になりました。その後の歴代学部長も引き続きこの事業を拡大強化されました。留学生教育も充実しました。文科省から公式にセンターの地位を認められた記念日に、井戸を掘った人、井戸の水を枯れないようにしている人、を想起して頂ければ幸いです。

佐分 晴夫  
名古屋大学名誉教授、名古屋経済大学学長（日本）



名古屋大学法政国際教育協力研究センター設立20周年おめでとうございます。設立当初からかかわった者として感無量です。名古屋大学が力を入れてきた、市場経済制度を導入したアジア諸国に対する法整備に携わる人材の育成は、法律は文化であり正しく理解されるためには日本語で教育をする必要があるという考え方の下で、日本法教育研究センターを各国に設置し、多くの関係者の努力で大きな成果をあげつつあります。市場経済の在り方が問われている現在、新たな秩序を求めて、共同研究が進むことを期待しております。

佐々木 雄太  
CALE初代センター長、名古屋大学名誉教授（日本）



「CALE」の由来について申し送ります。発足当時のCALEの主な事業は、「社会主義」の国から「資本主義」の国に転じたアジアの国々（インドシナ3国及び中央アジア諸国とモンゴル）の「法整備支援」でした。センターの英語名称を決める時に、私はCenter for Legal Assistanceと考えていましたが、フランク・ベネットさんがLegal Exchangeが妥当だと提案してくれました。「法整備」には、一方的な「支援」ではなく「双方向的な思考や作業」が重要であることを考えると、もっともな提案でした。こうしてセンターはCALAではなく「CALE」と定まりました。CALEにとってこれからも大事な考え方だと思います。

杉浦 一孝

CALE第2代センター長、名古屋大学名誉教授（日本）



CALE設立20周年おめでとうございます。

私は、CALE設立後の2002年6月1日から2006年3月31日まで、センター長としてアジア法整備支援事業に携わり、その後も、2008年4月1日から2年間、大学院法学研究科長として、当時の鮎京正訓センター長とともに、この事業に取り組んできました。今は、このことを懐かしく思い出しますが、当時は、本来の研究・教育に加えての国際貢献事業でしたので、かなりしんどい仕事だと思っていました。

CALEが引き続きその使命を自覚しつつ、アジア法整備支援に係る研究・教育の領域で着実に成果をあげられることを期待しております。

鮎京 正訓

CALE第3代センター長、名古屋大学名誉教授、愛知県公立大学法人理事長（日本）



CALE創立20周年おめでとうございます。CALEが設立された時代は、同時に文部省特定領域研究“アジア法整備支援”という大型科研が採択された時期でもありました。あれから20年。アジア諸国法研究も大きく発展し、また法整備支援も日本法務省、JICAを中心に着実に前進してきました。CALEの今日的な課題は、大学でなければならないアジア諸国法研究を果たすことです。デジタル化の今日、アジア各国の卒業生を主体にして、研究ネットワークを作り上げ、各国の法情報、法理論を集約し、社会に公開することです。それが新しいCALEの姿であると確信します。

市橋 克哉

CALE第4代センター長、名古屋大学名誉教授、名古屋経済大学法学部特任教授（日本）



CALEの創立20周年、おめでとうございます。文科省令に基づく国際的正式組織となり20年を迎えたことは、名古屋大学にとってだけでなく日本の法整備支援・協力の歴史のうえでも、意義深いことだと思います。20年の歴史でその中期（日本法センターを次々と各地に設置した時期）にあたる2010年から13年まで、センター長を務めました。当時、活動の「追い風」となったグローバル化は、今、「排除」を進めるブロック化の時代へと暗転し、CALEにも「影」を投げかけていると思います。CALEには、分け隔てなく「包摶」して協力するという理念に基づく活動を、ぜひ引き続き推進されることを期待しています。

國分 典子

CALE第6代センター長、法政大学法学部教授（日本）



CALE創立20周年を心からお慶び申し上げます。

20年前は日本の法学のなかで「アジア法」という言葉が定着し始めた時期でした。その重要な一翼をCALE創設者の方々が担って来られました。私自身、CALEを通じてアジア法研究者との繋がりを育めたことを改めて深く感謝申し上げます。法整備支援に関しては、かつてソフトパワーが弱いと言われた日本、その中でも大学の一機関にすぎないCALEが世界的に稀有な法学教育支援を行ってきたことは今も他の追随を許さない貴重な成果です。先の見えにくい世界でスタッフの皆様には日々ご苦労が多いことと思いますが、ますますのご健勝を祈念申し上げます。

# Congratulatory Message for CALE 20th-Anniversary *from domestic partners*

蜂須賀 太郎

愛知県弁護士会会長 (日本)



名古屋大学法政国際教育協力研究センター (CALE) が設立20周年を迎えたとのこと、誠におめでとうございます。

この名古屋の地において、アジア諸国に対する法整備支援研究に関する国内外屈指のグローバルネットワーク拠点があるということを、大変誇りに思っております。

私ども愛知県弁護士会は、この地域における実務法曹が集う団体として、日々最前線で法律実務に携わっております。そのような実務団体と、CALEのようなグローバルな視点を持つ研究者・教育機関が交流することにより、新たな視点で法理論の研究が進んだり、双方の団体での人材育成が行われてきたりしたことは大きな意義を有してきたと思っております。

今後もグローバル化の波が止まることはないと思われますので、これからも両団体で有意義な交流を続けさせていただければと思います。

中野 正康

一宮市長 (日本)



設立20周年、誠におめでとうございます。貴センターが、設立以来、国内外に優秀な人材を多数輩出されましたことに、深く敬意を表します。2005年の愛・地球博では、鮎京正訓名誉教授のご紹介によりウズベキスタン共和国と一宮市の交流が始まり、現在も同国を中心としたアジア各国の留学生と市民交流が続いています。コロナ禍で混迷を極める国際情勢である現代こそ、アジア地域の平和と安定は世界の重要な課題であり、若い世代による未来志向の人的交流の継続が必要です。貴センターにおかれましては、アジア各国の機関の連携協力の中心として、今後ますますご発展されますことを祈念いたします。

境 敏幸

株式会社 大垣共立銀行取締役頭取 (日本)



名古屋大学法政国際教育協力研究センターが設立20周年を迎られましたことを心からお祝い申し上げます。経済発展著しいアジアにおいて、長年にわたり各国の法整備支援をしてこられたことに敬意を表します。また修了生の方々が自國の中枢で要職に就かれ活躍されていることは、正に貴センターの人材育成が実践的かつ有意義であったことの証であります。OKB大垣共立銀行は中国、ベトナム、フィリピンに拠点を有しており、引き続き皆さまと協働しアジア地域の発展に寄与する活動をしてまいりますとともに、貴センターの今後の益々のご発展を心からご祈念申し上げます。

藤田 美保

かにえ国際交流友の会会長 (日本)



法政国際教育協力研究センターの創立20周年おめでとうございます。研修学生短期ホームステイの当会での引き受けは、2009年からコロナ禍で中止になるまで10年間で学生数は57名でした。始まって翌年からは当会の年間定例行事になりましたが、最初のうちは引き受け先家庭を見つけるのに苦労しました。ただ、滞在学生との交流は評判がよく、後半ではお願いするのが段々と容易になってきました。このホームステイの目的の一端は、日本の家族と一緒に過ごして家庭生活を垣間見る機会とするものだと思います。これは私達の国際交流の観点からも望ましい活動でしょう。コロナ禍後の再開を願っています。

石川 末雄

幸田町国際交流協会相談役（日本）



「20周年」おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。貴会のホームステイの開催は毎年8月中～下旬であったと思います。丁度その頃は当町においては町主催の夏まつりの時期もあり、生徒の皆さんは、ホストファミリーの方々と一緒にユカタを着てご参加され「盆踊り」や「花火見物」を楽しんで頂いております。ボーリング大会も数回行いました。今も強く印象に残っているのは来町して頂いた女学生さんの熱心なお誘いで、ホストファミリーの両親が3年後に、彼女の国を訪問され素晴らしい観光、交流をされました。彼女は現在千葉に同国人のご主人と子供と三人で生活しているそうです。CALEのプログラムに協力させて頂けることは私共の協会の誇りとする事業でもあります。

宮崎 桂

独立行政法人国際協力機構（JICA）ガバナンス・平和構築部部長（日本）



このたびの設立20周年を迎えられるにあたり、心からお祝い申し上げます。貴センターの法整備支援事業を通じたアジアの人づくり、国づくりへの長きにわたるご貢献に心から敬意を表するとともに、研修員や留学生の受入等を通じて弊機構の国際協力事業への多大なご協力に厚く御礼申し上げます。コロナ禍に加えて国際秩序が動搖する今日、一人ひとりの権利や自由を守ることは益々重要になって参りました。人間の安全保障、そして平和と安定の実現をめざし、開発途上国における法の支配の促進に向けて共に取り組むパートナーとして、貴センターの益々のご発展を祈念しております。

小杉 丈夫

公益財団法人 国際民商事法センター理事（日本）



設立20周年おめでとうございます。関係者の皆様に心からお祝いを申し上げます。貴センターの活動は、アジア諸国の若者に日本文化と日本法を学んでもらうばかりでなく、法学研究科との連携の下、日本の若い世代と彼等との交流を通じて、日本人の人材育成にも大きく貢献されていることが特筆されます。コロナ禍で難問が山積する中、オンライン授業の活用をはじめ、新しい手法を開発されるなど、afterコロナを見据えて前向きに取組んでおられ、その逞しさと飽く無きチャレンジ精神に心を打たれています。貴センターの益々の御発展を祈念します。

森永 太郎

国連アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI）所長（日本）



CALE20周年、誠におめでとうございます。また、同じく法整備支援の仕事に携わってきた者として、これまで数多くの場面でCALEからのご協力、ご支援を頂いたことに、この場を拝借して心から感謝申し上げます。途上国の法律界に新たな、優秀な人材を送り込んできたCALEの輝かしい業績は、我が国の誇りです。私は何度も日本法センターの学生さんや卒業生とお話しする機会を頂きましたが、そのたびに彼ら、彼らの知識、能力に驚かされ、その向上心と、自分の国を良くしようとする熱意に感銘を受けました。人々の将来は明るいようです。一層のご活躍をお祈りしています。

**村瀬 幸雄**  
十六銀行会長 (日本)



CALE設立20周年を心よりお祝い申しあげます。奨学金等によりご支援する機会に恵まれたことを誇りに感じています。アジア各国への法整備支援や人材育成の具体的な活動は、日本の大学でも例を見ない画期的かつ先進的な取り組みです。修了生は母国をはじめ国内外で要職に就き、世界的なネットワークを形成し活躍されています。アジア諸国は、この20年間に目覚ましく発展していますが、CALEによる各国への同窓生の輩出、法インフラの充実が大きく寄与されていると確信しております。貴センターが日本を代表するアジア法研究機関として、益々ご発展されることを祈念申しあげます。

**筒井 宣政、筒井 陽子**

(株) 東海メディカルプロダクツ会長、副会長 (日本)



CALE設立20周年、心よりお喜び申し上げます。CALEの拠点であるアジア法交流館の設立趣旨に賛同し、館内に茶室を寄贈し、亡くなった次女佳美の戒名にちなんで「白蓮庵」と命名させていただきました。先天性心臓疾患だった佳美を何とか救いたいという思いから人工心臓の研究を始めて医療業界に入り、国産初でIABPバルーンカテーテルを開発まで至りましたが佳美は救えませんでした。佳美は茶道が好きで、日本文化の素晴らしさを沢山学んでいました。CALEに集う世界中の人々が寄贈した茶室で日本文化に触れ、心通わす良い機会となることを心より祈っております。

**牧山 嘉道**

日本弁護士連合会国際交流委員会委員長 (日本)



名古屋大学法政国際教育協力研究センター (CALE) が設立20周年を迎えたこと、心よりお祝い申し上げます。CALEの活動には、当委員会の弁護士も、セミナー等への参加、各国の日本法教育研究センター (CJL) の法学特任講師としての赴任、各国CJLの学生に対する指導の補助等で協力させていただいています。CJLの学生は、それぞれの国における問題に法的思考を駆使して取り組み、流暢な日本語で発表、議論を行い、CJL卒業後も各国で活躍されており、CALEの「日本語による日本法教育」の素晴らしさを実感しています。今後も、当委員会は、CALEの活動に対して協力していきたいと考えています。

**矢橋 龍宜**

矢橋ホールディングス株式会社代表取締役社長 (日本)



CALE設立20周年誠におめでとうございます。

新興国にとって法整備は投資家及びその国の国民にとってどうしても必要な事です。CALEから巣立った人材はその国を支える法律家となり、また親日家となって両国との関係を強い絆で結んでいただける事と思います。

この20年間のCALEの仕事は関わられた各国の基礎となって、今後益々その効果が表れて来ることでしょう。日本人の一人として大変誇りに思っております。これからも20年更に活動を広げられて、各国の法整備に御力を入れて頂きますよう心よりお願い申し上げます。

# Congratulatory Message

## for CALE 20th-Anniversary →

### *from foreign partners*

**Yuok Ngoy**

Secretary of State, Ministry of Education, Youth and Sport, Kingdom of Cambodia (Cambodia)



Congratulations on the CALE's 20th anniversary!

20 years has passed, CALE has tried hard to build up international cooperation and research work. From the inception of mutual cooperation between the Royal University of Law and Economics and Nagoya University Graduate School of Law, many graduates from Nagoya University have played a vital role in contributing to Cambodian legal system and education. We are proud to have tight cooperation with Nagoya University. We believe that in the future, CALE will bring highly recognized legal research in Asia and beyond. Moreover, international events which can bring back alumni and other researchers around the world to discuss and share opinions at CALE are also crucial for exchanging legal practices.

**Luy Channa**

Rector, Royal University of Law and Economics (Cambodia)



Cambodian public university which has been working for years with Nagoya University to congratulate CALE on its 20th Anniversary. RULE has been benefiting from the support of Nagoya School of Law and CALE since September 5, 2008 with the establishment of the Education and Research Center for Japanese Law (CJL) . Its mission is to nurture specialists with an understanding of Japan's society, culture, language, and law. It has been providing Cambodian students Japanese Language education and Japanese Law education in Japanese.

We hope that CALE will continue to develop such interesting programs and we intend to constantly increase our cooperation with CALE and Nagoya University in the future.

**Hor Peng**

GSL Alumni, Rector of National University of Management (Cambodia)



I am honoured to be invited to send a congratulatory message to the 20th Year Anniversary of CALE and inaugural ceremony and international symposium on September 20 and 21, 2022 to be hosted by CALE.

As an Alumni member of Nagoya University, Graduate School of Law from 1999-2005 (LLM and LLD Program) and on behalf of the National University of Management, I would like to express my gratitude to the university and all professors, and appreciation to CALE and its activities with NUM in legal education and research. I wish to continue our international cooperation in legal education and research activities in the areas under the framework of digital economy and society.

I would like to take this opportunity to extend my invitation to CALE and all its partners, scholars, and researchers to join NUM's newly established ASEAN Economic Research Institute (AERI) to promote legal research activities related to ASEAN and the region.

I wish CALE for the successful hosting of international symposium and all participants stay healthy and prosperity.

**Viengvilay Thiengchanhxay**GSL Alumni, Member of the National Assembly of the Lao PDR,  
Dean of the Faculty of Law and Political Science, National University of Laos (Laos)

I feel extremely privileged to have attended and continue to attend the Graduate School of Law at Nagoya University in Japan. This sentiment is shared by many Lao students who have attended this institution. I will never forget that since its inception, CALE of the Nagoya University has conducted a variety of activities in the development and exchange of legal cooperation among Asian nations, including Lao PDR. On the occasion of the 20th anniversary of CALE's founding, may this center be forever stable and flourish alongside GLS, Nagoya University, and us.

**Philachanh Phomsuvanh**

GSL Alumni, Head of Labour Chamber, Justice of the people's supreme Court (Laos)



Congratulation, CALE 20-year's establishment anniversary. For almost a decade I have been studying the LLM and LLD course at Nagoya University, it's unforgettable memory; I've had the chance to join CALE activities and the legal forum organized by CALE to develop legal manual and exchange international experiences of law by inviting legal experts and law professors from Asian countries both held at Nagoya and places such as Tokyo or Osaka. CALE is remarkably extended international relations which is well-known today. I'm very proud of myself and my sons for having a chance to study at the Faculty of Law, NU which joins CALE activities as same as I have done in the past. On the occasion of the auspicious 20th anniversary, with CALE staffs and professors have good health, fulfill duties, and reach the targets of CALE.

**Than Nwe**

Part-time Professor, Department of Law, University of Yangon (Myanmar)



It is my privilege to congratulate on this auspicious occasion of Center for Asian Legal Exchange's 20th Anniversary. Since 2013, CALE has established Myanmar-Japan Legal Research Center for further collaboration between the University of Yangon, Myanmar and Nagoya University of Japan. It has been fruitful in academic cooperation between two countries; such as student exchange programs, visiting research fellow programs, academic conferences for comparative studies, and the collaborative research projects. Because of effective student exchange agreements, Myanmar students have opportunities to gain a broader and worldwide knowledge for their further studies. I appreciate the CALE's continuing effort to broaden cooperation between two universities and their endeavors. I would like to conclude my congratulatory remark by having a strong hope that CALE will continue to contribute even further to the enhancement of global network in the future.

**Khin Phone Myint Kyu**

Professor and Head of Law Department, University of Yangon (Myanmar)



I am pleased to congratulate and warmly welcome the CALE's 20th Anniversary. The CALE has been working together with the University of Yangon since the MoU has been signed between Nagoya University, Japan, and the University of Yangon, Myanmar, in 2013. Partner universities of CALE altogether analyze and aim to understand the concept and ideas, the theoretical background, and practical experience of the legal view of comparative aspects in different countries. It is a tool for sharing ideas, knowledge, and expertise by enhancing theory, application, and practice. So, I believe that the activities of CALE are sure that CALE will become a valuable platform for collaboration and sharing research findings, insights, and distinguished scholars around the world. I would like to extend my sincere congratulations and best wishes for the success of CALE.

S. ナランゲレル

モンゴル国立大学名誉教授 (モンゴル)



名古屋大学にCALEが設立されたことは、モンゴルの法学教育と法学研究に大きな影響を与えたと常に考えてきました。CALEの活動により両大学の協力関係がさらに拡大し、その多面的な活動の成果をモンゴル国立大学、そして法学部の多くの教員、卒業生が享受してきました。CALEの設立に関わりこれまで誠実に支えて来てくださった先生方、大きな役割を果たした日本政府、文部科学省の代表者に深く感謝申し上げます。CALEの活動・業績を引継ぎ維持していくことが、今後も我々の重要な目的であると信じております。CALE20周年のお祝いを申し上げるとともに、ご活動のご成功をお祈り申し上げます。

**Amarsanaa Batbold**

GSL Alumni, Dean, School of law, National University of Mongolia (Mongolia)



It is my pleasure to congratulate CALE as it celebrates 20th anniversary in the year 2022. Since its founding in 2002, the CALE has become highly recognized institution worldwide for its innovative approaches to law and development in the context of Asian developing countries. I am confident that CALE will continue to play a significant role in deepening understanding between nations in way of advancing legal research, training and legal information exchanges.

The past years have been challenging times due to the pandemic, but occasions like this are a wonderful reminder that great things are still happening. It is my hope that everyone affiliated and/or in cooperation with the CALE takes time to reflect as well as pride in all the incredible accomplishments of the past 20 years. Thank you to the faculty, staffs, donors, professionals, and students both past and present, for your hard work to make CALE one of the leading centers for education and research in its region.

Once again, I, on behalf of School of Law of the National University of Mongolia, congratulate you on 20 years of history-making. We look forward to working with you in supporting CJLM activities at my institution.

**Dashbalbar Gangabaatar**

GSL Alumni, Justice, Constitutional Court of Mongolia (Mongolia)



On behalf of the alumni members in Mongolia, I would like to extend my warmest congratulations on the 20th anniversary of the Center for Asian Legal Exchange. Activities of CALE made remarkable positive impacts on the development of legal systems in Asian countries. It has produced hundreds of graduates who contributed to the strengthening of constitutional democracy in their respective countries. I, myself, am a proud alumnus of the Graduate School of Law, Nagoya University. I am confident that CALE will continue to play an important role in the advancement of legal research and education in Asian countries.

I look forward to witnessing the continuous success of CALE in its future endeavors.

**Akmal Saidov**

Director of the National Human Rights Center of the Republic of Uzbekistan



Milestone in sight is a sign that CALE has established itself as a regional leader in legal thought. This is a cause for celebration and best wishes are due from NCHR and the people of Uzbekistan for we intend to witness bigger peaks scaled in cooperation. Throughout 2020-2022, the NCHR, in collaboration with CALE organized a number of events to discuss legal issues in the field of constitutional law, international law and human rights as well as to exchange experience and opinions. In a short period of time since signing the MoU between our Centers in July 2021. We have been able to benefit profusely from this cooperation through exchange of expertise, workshops, support in new initiatives, as well as bilateral and multilateral conferences. Despite the restrictions imposed by pandemic CALE participated actively in web-forums on Youth Rights and other conferences. May the 20th anniversary of CALE give an impetus for the close collaboration between our two organisations.

**Rustambaev Mirzayusuf**

Head, University of Public Safety (Uzbekistan)



Since 2002, various academic and educational projects between Nagoya University and Tashkent State University of Law have been implemented and all these contributed to the deepening of our friendship relations based on mutual and sincere trust and respect. Students of Center for Japanese Law are still enjoying the opportunity of learning both Japanese language and law directly by Nagoya University professors. Many graduates of the Center pursued their graduate studies to Nagoya University and majority of them are working in key positions in the government of Uzbekistan. Some of them continued their scientific research on legal issues and sharing their knowledge and experience with Uzbek students.

Today I want to congratulate my colleagues from CALE, Nagoya University, with whom I have been collaborating for 20 years on their anniversary and wish everyone great success and achievements.

**Akbar Tashkulov**

Rector of the Tashkent State University of law (Uzbekistan)



On behalf of Tashkent state university of law, I am pleased to offer my warmest congratulations to the Centre for Asian legal exchange (CALE) to celebrate its 20th anniversary. The 20th anniversary is a time for reflecting on the past and looking ahead to the future. Based on the solid foundation of the University, CALE has assisted countries in Asia to build up legal systems suitable for the process of nation-building. I earnestly hope that the Center will garner more wisdom, enthusiasm and expertise from a broad spectrum of related people to help perpetuate its contributions to the society in the legal arena. I am confident that with the strong leadership and devoted faculty and staff, the Centre will achieve new heights in all spheres in the years to come.

**Akmal Burkhanov**

GSL Alumni, Director, Anti-corruption Agency (Uzbekistan)



Personally and on behalf of my entire organization, let me extend my heartiest congratulations to you for completing 20 glorious years of success. During all those years, CALE has done a lot of assistance to Uzbekistan on legal reforms, as well as research and education. And I may assure that CALE has one of the best reputations in legal international cooperation across the world. I wish all the success for many more years to come. And very much looking forward to further deepen our joint cooperation activities in the near future. Congratulating you once again on this important Anniversary!

### Le Thanh Long

GSL Alumni, Minister of Justice, Socialist Republic of Vietnam (Vietnam)



It is my great pleasure to write on behalf of the Ministry of Justice of Viet Nam and as a Nagoya Alumnus to extend my sincere gratitude and warmest congratulations to the Center for Asian Legal Exchange on its 20th Anniversary. We acknowledge and highly appreciate the outstanding achievements of CALE over the past 20 years, especially those in promoting legal exchange between Japan and Viet Nam, and in supporting the training of legal professionals and legal officials of Viet Nam in general and of the Ministry of Justice in particular. I am confident that CALE will continue to play its pivotal role in the advancement of legal exchange in Japan and the surrounding region. I look forward to witnessing CALE to achieve many more milestones in the future and hope CALE will continue to actively support the training of Viet Nam's highly qualified legal officials, thereby contributing its part to strengthening the Vietnam - Japan Extensive Strategic Partnership.

### Dang Hoan Oanh

GSL Alumni, Vice-Minister of Justice, Socialist Republic of Vietnam (Vietnam)



I am delighted to extend my warm congratulations to the CALE on its 20th Anniversary. In the globalization era, legal exchange is crucially important for any country that needs to narrow the gaps between domestic and international laws. The establishment of CALE is great evidence of how Nagoya University responds to global needs for legal cooperation and development. As one of the alumni of the Graduate School of Law, I am honored to witness CALE's successful development. I am proud to be a part of CALE by supporting CALE's operation. In Vietnam, CALE is a valuable partner for Hanoi Law University – under the Ministry of Justice, especially in developing human resources through the CJL. As a deputy Minister of Justice, I am glad to see the achievement in collaboration between Hanoi Law University and CALE. I believe that this collaboration has continuing brought us a fruitful future.

### Pham Quang Hieu

GSL Alumni, Vice-Minister of Foreign Affairs, Socialist Republic of Vietnam (Vietnam)



名古屋大学元留学生で、現在ベトナム外務省副大臣として活動している Pham Quang Hieu でございます。  
法政国際教育協力研究センター (CALE) 設立 20 周年、おめでとうございます。  
現在、ベトナムと日本は、2023 年の日越外交関係樹立 50 周年を迎えてます。日本・ベトナム戦略的パートナーシップの関係は、司法協力分野を含むすべての分野において、友好に発展しております。その発展における CALE の積極的な貢献、両国の法律分野の協力活動、及びベトナムへの人材育成について、高く評価されています。  
この度、CALE の更なるご発展、そしてこれまでにないベトナムと日本の最良の関係に引き続き貢献できるように祈念いたします。

**Congratulatory Message**  
for CALE 20th Anniversary

**Doan Trung Kien**

Rector of Hanoi Law University (Vietnam)



It gives me great pleasure to congratulate the Center for Asian Legal Exchange on behalf of Hanoi Law University for all its achievements since its inception 20 years ago. We are proud of our collaboration with CALE, especially the establishment of the Center of Japanese Law in Hanoi Law University. It is a significant contribution to developing the human resources of Vietnam. Our students have been highly appreciated by the governments of both Vietnam and Japan. I am confident that CALE will continue to play a significant role in promoting legal exchange not only for Vietnam but also for the world. I am confident that CALE will continue to play a significant role in promoting legal exchange not only for Vietnam but also for the world. Thank you for your extraordinary collaboration with our university, and best wishes for continued success.

**Tran Hoang Hai**

Acting Rector, Ho Chi Minh City University of Law (Vietnam)



I am delighted to extend my warm congratulations to the Center for Asian Legal Exchange (CALE) on its 20th Anniversary. This is a time for reflecting on the past and looking ahead to the future. Over the past two decades, CALE has assisted countries in Asia, including Vietnam to build up legal systems suitable for the process of nation-building. Based on the support of CALE and Graduate School of Law, Ho Chi Minh City University of Law has developed greatly by increasing the number of law students as well as researchers who are fluent in Japanese. I keenly look forward to witnessing the continuous achievements of the CALE along its mission of building up legal systems internationally. I would also like to convey my warmest wish for every success of the CALE's celebration of its milestone of the 20th anniversary.

**Dao Tri Uc**

Former Director, Institute of State and Law/ Honorary Doctor of Nagoya University (Vietnam)



Warmest congratulations for CALE's 20th anniversary! I highly value our long-term cooperation and wish further prosperity and more achievements for CALE!

**Sarah Biddulph**

Director, Asian Law Centre, Melbourne Law School University of Melbourne (Australia)



Congratulations on reaching this wonderful milestone of the 20th anniversary of CALE's founding. The Asian Law Centre has been collaborating with CALE since 2004 through research collaborations, visits and exchanges. Our program to promote academic and research cooperation and exchange was formalised in 2006.

All of us here at the ALC deeply value our longstanding relationship with CALE and our many collaborations. We celebrate your anniversary and the lasting friendships we have developed with members of CALE. We look forward to broadening and deepening our ongoing relationship into the future.

**Herbert Küpper**

Managing Director, Institute for East European Law, Regensburg (Germany)



The partnership between CALE and the Institute for East European Law has a long history. Our institutions concluded a cooperation agreement as early as in 2009. The common interest is research on the legal systems in Eurasia and international legal cooperation with the region. Since 2009, our cooperation has been active and mutually beneficial. Japan and Germany are both donor countries, the Japanese perspective is a valuable diversification of our German way to look at Eurasia. We appreciate in the colleagues from CALE their high academic standards, intellectual precision and diligence, and of course their human qualities. I can say that the CALE staff members are not only colleagues, but friends. May our cooperation and friendship continue for many decades to come.

**Kye-Hong Kim**

President, Korea Legislation Research Institute (Republic of Korea)



Korea Legislation Research Institute (KLRI) congratulates the 20th anniversary of the Center for Asian Legal Exchange of Nagoya University (CALE) ! The KLRI and CALE have been in a good cooperative relationship since 2006, carrying out various activities together. CALE has been proving its important leading role and position in the international legislative field with rich research and human resources and timely and accurate research outcomes. We value our relationship and hope to see our mutual cooperative relationship to grow even stronger in various areas.

We wish CALE successful years ahead.

**Jaclyn Neo**

Associate Professor, National University of Singapore, Faculty of Law (Singapore)



My heartiest congratulations to the Centre for Asian Legal Exchange (CALE) at Nagoya University on the occasion of your 20th anniversary! CALE has done tremendous work in building legal capacity across Asia and in establishing important collaborative networks for the promotion and development of Asian law. The Centre for Asian Legal Studies is proud to have CALE as one of our most valued collaboration partners and we hope to be able to strengthen our connections to advance our joint mission to develop effective intellectual networks and research capacity across our region.

## 発行

### 名古屋大学法政国際教育協力研究センター

#### 【連絡先】

〒 464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL. 052-789-2325・4263 / FAX. 052-789-4902

E-mail : cale-jimu@law.nagoya-u.ac.jp

CALE NEWSのバックナンバーはCALEのホームページでもご覧いただけます

URL <https://cale.law.nagoya-u.ac.jp/>

CALE NEWSが不要の方および送付先を変更される方は、  
上記連絡先までご連絡下さい。

#### 「CALEのスタッフ」

(名古屋大学アジア法交流館)

クム・カエマリー (大学院法学研究科博士後期課程2年) 撮影  
牧野絵美(CALE副センター長)コメント

現在、CALEには、11名の教職員が勤務しています。2022年4月から日本法教育研究センター(CJL)が独立し、村上正子第8代CALEセンター長と松尾陽初代CJLセンター長のもと、松田貴文副センター長、牧野絵美副センター長、アジア諸国の法律を専門とする傘谷祐之特任講師、イスマトフ・アジス特任講師、日本語教育を専門とする瓦井由紀特任講師、事務スタッフ4名が、それぞれの専門性・得意分野を生かして職務にあたっています。個の能力をさらに発揮させるチームワークがCALEの強みです。